

京たなべ

発行/京田辺市
〒610-0393 京都府京田辺市田辺80
☎(0774)63-1122 FAX(0774)63-4781
HP http://www.kyotanabe.jp/

■主な内容

P2 胃・大腸がん検診
P3 年金記録早期回復の基準を追加
P4-5 一休さんウォーク
11月13日(土)午前9時30分、田辺公園多目的運動広場からスタート。市内の名所・旧跡を歩きます。申し込みは、10月31日(日)まで。



9月9日は救急の日

救急医療週間に消防フェア



9月9日は「救急の日」で、この日を含む1週間を「救急医療週間」としています。

週中、次のとおり消防フェアを開きますので、親子で参加ください。

日時 9月5日(日)午前9時～正午

場所 消防署

内容 救急車・消防車の見学撮影会、ミニ消防車の試乗、レスキュー体験

参加費 無料
申込 不要

車で来場の場合は、市役所駐車場をご利用ください。

救急車の適正利用にご協力ください

近年、単なる酒酔い・打撲・風邪をひいたときなど、明らかに緊急性が低いと思われる救急要請が少なくなく、本当

に救急車が必要な人へ速やかに救急車を出动させることができなくなっています。

症状が軽い場合は、自身で最寄りの病院や病院へ行く、体の調子がおかしいなど感じたら早めに診察を受けるなど、大切な命を救うために救急車の適正利用にご協力をお願いします。

なお、救急車以外に搬送手段がなく、症状から緊急に病院への搬送が必要な場合は、迷わず救急車を要請してください。

救急車は市民のみならず、とって大切なものです。有効に活用してください。

「問合せ先」
消防署 ☎63・1125

普通救命講習

日時 9月11日(土)午前9時～正午

場所 消防署北部分署

対象 京田辺市・井手町・宇治田原町に在住・通勤・通学する中学生以上の人。グループでの参加も可能

内容 AED(自動体外式除細動器)を用いた心肺蘇生の講習。一定レベル以上の技術を習得した人には修了証を発行します

定員 先着10人
参加費 無料
申込方法 9月10日(金)午後5時までに、来所・電話で申し込んでください。定員になり次第、受け付けを終了します

申込・問合せ先 消防署北部分署 ☎63・1125
▼消防署北部分署 ☎65・0119

安全・安心な地域づくりを目指し

大住中で総合防災訓練

市は、総合防災訓練を行います。

この訓練は、大災害などによる非常事態に備え実践的な訓練を行うことで、みなさんの生命を災害から守り、安全・安心に暮らせる地域づくりを目指し行います。ヘリコプターの飛行・旋回などで、近隣のみなさんにご迷惑をお掛けしますが、ご理解・ご協力をお願いします。どなたでも観覧できますので、ぜひお越しください。

日時 9月19日(日)午前9時～11時30分。小雨決行(警報発表時は中止)

場所 大住中学校グラウンド

訓練想定 午前9時、生駒断層を震源とし、マグニチュード7.0の直下型地震が発生。市内北部地域で多くの家屋が倒壊、ライフラインの損壊や交通の途絶、火災などの被害が発生し、二次的災害を防止するため、住民を安全な場所に避難させる必要がある状況

問合せ先 安心まちづくり室 ☎64-1307



一昨年、京都府と合同で行った防災訓練

消防団員を募る

地域のために活動しませんか

京田辺市消防団は、地域のために活動する消防団員を募集しています。災害はいつ起こるか分かりません。災害が起きたときは、自分の住んでいる地域を守るために多くの人の力が必要となります。

【入団要件】
市内に在住・通勤する18歳以上の男女は問いません

消防団員は、「自分たちのまちは自分たちで守る」という使命感の下、さまざまな仕事を持ちながら地域の防災リーダーとして幅広い活動を行っています。防災に強いまちづくりのため、一緒に自分のまちを、みんなのまちを守りましょう。

【入団方法】
関係者か消防総務課にお問い合わせください

【問合せ先】
消防総務課 ☎63・1125



家族が突然倒れたら もしものために救命講習

もし、家庭で家族が突然倒れたら、もし、街で倒れている人がいたら、あなたは何かができますか。

冷静なときなら、倒れている人の意識・呼吸をみる、手助けしてくれる人を呼ぶ、119番通報する、心肺蘇生術を施すなど自身ができることを思い浮かべることができるでしょう。さあ、いざというときはどうでしょう。

8月9日、消防署北部分署で開かれた普通救命講習には、「夫が倒れたことがあったが、おろおろしただけ。次は私が何とかしなきゃ」「夫婦とも高齢になり、何が起こるか分からない」「介護の仕事なので、緊急時に自信を持って対処できるように」「AEDをよく見かけようになったけど、使い方を知らなくておかない」「忘れてはいけないので、繰り返し受けたい」とさまざまな動機で受講者が参加。いずれも、救急車が到着し隊員に救命バトンを渡すまでの備えとして、知識とトレーニングが大切との思いは同じ。

あなたもそんな思いをお持ちなら、ぜひ、受講してください。救命リレーはあなたが第1走者です。